

食堂

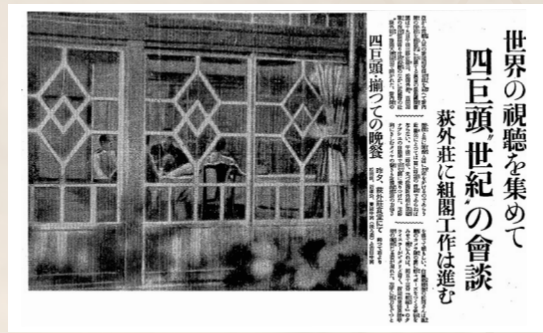
創建時の居住者である入澤達吉は、この邸宅を、客人を招くための場所にしたいと考え、食堂には、来客をもてなすための大きなテーブルと多くの椅子が置かれました。床は寄木張りとなっています。

邸宅を譲り受けた近衛文麿は、荻窪会談(昭和15(1940)年7月19日)を客間で行った後、この場所で出席者をもてなしました。

葡萄とリスの意匠があしらわれた食堂キャビネットは、古写真を参考に復原しました。壁紙の色や文様も古写真のカラー化分析から推定し、腰壁壁紙文様は双鳳文様、長押上壁紙文様は鶏頭文様としました。



食堂(創建時)



会談後晚餐新聞記事

昭和15年7月20日/毎日新聞



食堂(復原後)